

脱炭素の実現に向けて

株式会社大林組

常務執行役員 東北支店長 鈴木 直行

(東北活性化研究センター 参与)



弊社は、1892年の創業以来、「誠実なものづくりの姿勢」や「技術力」という先人たちから継承してきたDNAを根幹に、東京中央停車場（現：東京駅）、関西国際空港、東京湾アクアライン、東京スカイツリー®などの、時代を象徴する数々のプロジェクトに携わってきました。東北地方では、1929年に宮城県庁舎、1930年に藤崎百貨店の建築工事を受注し、まずは仙台を中心とした地域に足がかりを築きました。1932年には仙台営業所を開設し、その後、東北振興電力（東北電力の前身）の松川発電所や十和田発電所などの施工実績を積み重ね、終戦後の1946年には東北支店として新たなスタートを切りました。私は、2023年4月に第22代支店長に就任し、生まれ故郷である東北地方の発展に少しでも寄与できるよう邁進しております。

さて、弊社は、企業理念に掲げる「持続可能な社会の実現」のため、さまざまな社会動向や弊社グループを取り巻く事業環境の変化を捉え、経営基盤としてのESGや社会課題であるSDGsの達成への貢献を取り込み、グループ一体で「地球・社会・人」と自らのサステナビリティを同時に追求する長期ビジョン「Obayashi Sustainability Vision 2050」を2019年に策定しました。本ビジョンは、将来の持続可能な社会の実現を目標として2050年

の「あるべき姿」を「地球・社会・人のサステナビリティが実現された状態」と定義し、バックキャストिंगの手法により、弊社グループが取り組むべき2040～2050年の目標と事業展開の方向性を定めています。具体的には「脱炭素」、「価値ある空間・サービスの提供」、「サステナブル・サプライチェーンの共創」の実現に向けて、アクションプランとKPI（数値目標）を設定し取り組みを進めています。

「Obayashi Sustainability Vision 2050」で掲げる「脱炭素」の実現に向けて、弊社では、ZEBなどのカーボンニュートラルに寄与する建築物やインフラの供給だけでなく、再生可能エネルギーによる発電や水素の製造・供給といった創エネルギー事業にも積極的に取り組んでいます。

再生可能エネルギー事業に関しては、2012年に開業した京都府の「久御山太陽光発電事業所」を皮切りに、本年4月末時点で国内に太陽光発電所30か所、風力発電所4か所、木質バイオマス発電所2か所、計36か所で総発電容量284MW（持分容量）が稼働しております。東北地方においては、陸上風力である秋田県の「三種浜田風力発電所」、青森県の「上北小川原風力発電所」が稼働中であるほか、本年4月には、事業参画した福島県の「阿武隈風力発電所」

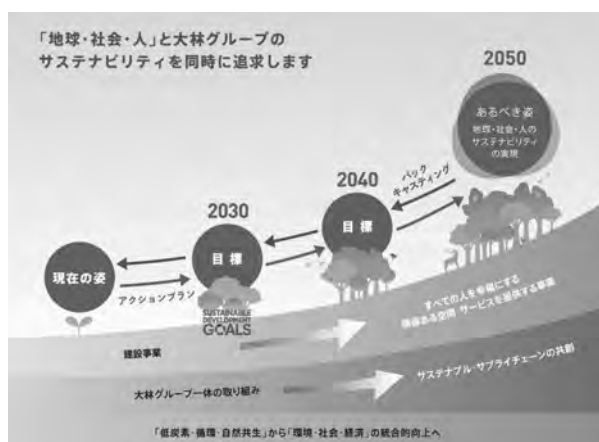
が営業運転を開始しました。また、海に囲まれた日本では洋上風力に再生可能エネルギー源としての大きな期待が寄せられているなか、商業ベースで国内初となる大規模な「秋田港・能代港洋上風力発電所」にも事業参画し、2023年1月に全面開業しました。こうした取り組みにより、2023年度は全国で約700GWhの再エネ電力を供給することができました。また、地熱発電に関しましても北海道京極町などで開発を進めるなど、再生可能エネルギー事業の業容拡大に努めております。

一方、水素事業に関しましては、再生可能エネルギー由来の水素、いわゆる「グリーン水素」のサプライチェーン構築に注力しております。水素は利用段階でCO₂を排出しない特性からカーボンニュートラル実現のためのエネルギーとして有力な選択肢の一つとされており、政府も水素基本戦略を策定し、導入促進を図っています。弊社は、以前より再生可能エネルギー事業の知見を活かせるグリーン水素の可能性に着目し、国内外で実証を推進してきました。

国内においては、2021年より大分県九重町で地熱を利用して水素を製造し、地元企業など

への試験供給を行ってきたほか、東北地方においては、ゼロカーボンシティ構想を宣言し、水素社会実現の先駆けとなるまちづくりを推進している福島県浪江町で、太陽光由来のグリーン水素を製造する「福島水素エネルギー研究フィールド (FH2R)」と町内の町役場など複数の需要拠点を連携させ、エネルギーマネジメントシステムを用いて搬送効率を最適化する実証（環境省委託事業）に取り組んでいます。海外においても、世界有数の地熱発電大国であるニュージーランドで、現地企業との合弁会社が水素製造・供給設備を整備するとともにモビリティ分野をはじめとする需要家の開拓および社会実装化を推進しています。

このように、「Obayashi Sustainability Vision 2050」で掲げる「脱炭素」実現に向けた各種取り組みと東北地方との関わりは多岐に渡っており、この分野における東北地方のポテンシャルは非常に高いと考えています。弊社は今日までの取り組みを持続的に成長させるとともに、これらの知見を活かした建設事業を展開し東北地方の更なる発展に貢献してまいります。



Obayashi Sustainability Vision 2050の概要



大林組の陸上風力発電第一号
三種浜田風力発電所（秋田県）